

「みんな仲良く」

氏名	大山 慧	学校名	栃木県 小山市立豊田小学校
担当教科等	全教科	対象学年	2年 1組 (34名)
実践年月日もしくは期間(時数)		2022年10月7日	

【実践概要】

1. 実践する教科・領域: 道徳				
2. 単元(活動)名: ひろいせかいのひとたちと				
3. 授業テーマ(タイトル)と単元目標 授業テーマ: 「みんな仲良く」 単元目標: 他国の人々や文化に親しもうとする心情を育てる。 関連する学習指導要領上の目標: 他国の人々や文化に親しむこと。				
4. 単元の評価 規準	身近な出来事や書籍、衣食住の中にある他国の文化に気付いたり、スポーツや身近な行事などを通じた他国との交流に触れたりしながら、他国の人々に親しみをもったり、自分たちと異なる文化のよさに気付いたりできるようにすることができる。他国の人々と交流したり、文化を味わったりしたことを互いに出し合ったり深めたりしながら、更に他国を知り、親しもうとする気持ちを高めることができる。			
5. 単元設定の理由・単元の意義 (児童観、教材観、指導観)	<p>【単元設定の理由】 児童は身の回りの事物が自国の文化なのか他国の文化なのかを明確に区別することは難しい。また、他国の人々や他国の文化に親しむ経験が多くはないという実態がある。 本単元では、他国の遊びや食べ物を知り、仲良くなる方法を考えることで、他国の人々や文化に親しもうとする心情を育てることができるようにする。</p> <p>【単元の意義】 グローバル化が進展する今日、国際理解や国際親善は重要な課題になっている。これらの課題に対応できるようにするためには、他国の人々や文化に対する理解とこれらを尊重する態度を養うようにすることが求められる。本単元では他国の遊びや食べ物などを通してそれぞれの国には独自の伝統と文化があることを知れるようにする。そして、自分たちの伝統と文化に対して誇りをもち、他国に対する親善の心をもつことができる。</p> <p>【児童／生徒観】 本学級の児童は、他国の人々や他国の文化に親しむ経験が多くはない。特に、他国の人々に対しての触れ合いについては、消極的になってしまう児童もいる。身近な出来事や書籍、衣食住の中にある他国の文化に気付いたり、スポーツや身近な行事などを通じた他国との交流に触れたりしながら、他国の人々に親しみをもったり、自分たちと異なる文化のよさに気付いたりできるようにすることが大切であると考えている。</p> <p>【指導観】 教材を基に日本と外国の同じところや違うところを知り、他国の人々と仲良くなる方法を考えることができるようにしたい。また、他国の人々と仲良くなる方法がわかることで他国の伝統や文化を受け入れる共感的理解を深めることができるようにする。</p>			
6. 単元計画(全1時間)				
時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1 本時	道徳 ひろい せかい のひ とたちと	誰とでも仲良くし、友だちを大切にして、励まし合うことで、仲間意識の自覚を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・どうすれば外国の友達と仲良くなれるのかを考えていくことがわかる。 ・教材から他国と同じことと違うことがわかり、仲良くなるためには違いを受け入れることが大切だということがわかる。 	ゲストティーチャー

7. 本時の展開(1時間目)			
本時のねらい: 他国の人々や文化に親しもうとする心情を育てる。			
過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 (5分)	<p>1 エチオピアで働き、外国の友達と過ごしていた先生を紹介し、どうすれば外国の友達と仲良くなれるのかを考えていくことがわかる。</p> <p>2 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 外国のお友だちとなかよくできる方ほうを考えよう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・仲良くできる方法を考えるために「ひろいせかいのたくさんの人たち」を読むことを伝える。 	ゲストティーチャー
展開 (35分)	<p>3 世界の遊びを知ったたけしの気持ちを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たこやコマは色々な形があるんだな。 ・違う国でも楽しんでいるんだ。 ・コマを一緒にやったら仲良くなれそうだな ・凧飛ばしで勝負したいな。 ・じゃんけんの仕方を覚えて一緒にやりたいな。 <p>4 たけしが色々な食事について知り、どんな気持ちになったか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくの知らない料理がたくさんある。 ・おいそうだな。どんな味なんだろう。 ・辛そうだな。ぼくは辛いのが苦手だから食べたくないな。 ・ちがいがいるのはなんでだろう。他にも調べたいな。 ・エスカルゴ料理は食べたくないな。 <p>5 たかしは「もっとなかよくなりしたい」思ったが外国の友達と仲良くなるためにはどんなことをすれば良いか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他にも色々なことを知ることが大切だと思う ・外国には知らない事がたくさんあるから知らないことを聞くことが良いんじゃないかな。 ・日本のことも知ってもらうために日本のことを紹介してあげれば良いと思う。 ・相手が大切にしているものを大切にす。 <p>6 ゲストティーチャーが行った国で外国の友達と仲良くなるためにしたことを紹介していただ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・凧が飛んでいる動画を見たり、実際にインドネシアのじゃんけんをペアでやったりして、日本と外国では似ているものがあることに気付かせ、たけしの気持ちを考える手立てとしたい。 ・日本にはない食べ物を通して、伝統や文化の違いがあることに気付かせ、仲良くなるためには違いを受け入れることが大切だということがわかるようにしたい。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> ◎資料を通じて他国の文化に触れることで、他国の人々に親しみをもったり、自分たちと異なる文化の良さに気付いたりすることができるように動画資料等を活用して説明する。(知性) </div> <ul style="list-style-type: none"> ・近くの友達と話し合い、考えを広げることができるようにする。 ・机間指導の際、Aのよさを認めてから、Aが考えた思いを意図的に取り上げることで他の国の人々や文化に親しもうとする心情を全体で共有できるようにする。 ・ゲストティーチャーの話を聞いて5の活動の考えを 	凧の動画

まとめ (5分)	き、外国の友達と仲良くなるための方法を5の活動に付け足す。 7 振り返り	より深めることができるようにする。 ・外国の友達と仲良くなるために自分がやってみようと思ったことをまとめるようにしたい。	
8. 評価規準に基づく本時の評価方法 ・外国の友達と仲良くなるためにはどんなことをすれば良いか考える児童の発言や友達の意見を聞いて考えが広がったことを見取る。 ・児童がノートに書いた振り返りを基に評価する。			
9. 学習方法及び外部との連携 ・ゲストティーチャー: JICA 海外協力隊に参加経験がある教職員。 児童はゲストティーチャーの話やスライド資料から他国のことを想像し、他国の友達と仲良くなる方法を考えることができた。 ・ゲストティーチャーは音楽と書写を担当しており、児童の理解度や状況を見て指導してくれている。			
10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組 学級では、他国の服や他国についての冊子を掲示したことで、児童の他国への興味・関心を高めることができた。			

【自己評価】

11. 苦勞した点	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の考え方を深めるために、教師が児童の反応を予想し、問い返しの方法を考えておくこと。 ・指導者の他国に対する見方や考え方が言葉や雰囲気を通じて児童に伝わるため、国際的な理解を深めていること。
12. 改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の考えを教師が聞くだけではなく、問い返しを行い、自分の考えを深められるように、授業をコーディネートすること。 ・道徳の目標を達成するために、資料の主人公の気持ちやどうしてそのような行動をとったのかを考えること。
13. 成果が出た点	動画やゲストティーチャーの話から児童はよく考え、自分の考えをもつことができた。
14. 学びの軌跡(児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)	<p>児童のノートの記述</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手のことを考えれば仲良くなれるとわかった。 ・他の国ではちがうあいさつをしているのがわかった。 ・他の国でも色々な遊びがあって楽しそうだなと思ったのでやってみたいと思いました。 ・外国と日本は全然違うのがびっくりしました。 ・フランスの料理がびっくりした。 ・私はおすしがすきです。でも、外国では食べられていないと聞いてびっくりしました。だから、私は外国の人たちにおすしを食べてほしいと思いました。おいしいと思って仲良くなれるかなと思いました。 ・私はちがう国も同じ食べ物を食べていると思っていたけど、この話を読んで、ちがう料理を食べている人がいると分かりました。 ・自分でもちがう国に行きたいです。
15. 授業者による自由記述	<ul style="list-style-type: none"> ・児童に様々な問いを投げかけることや考えを共有することで、児童の考えが広がっている様子が見とれました。自身のコーディネート力を高め、深い学びをすることができるようしていきたいと思いました。 ・教師国内研修では、校種の違う様々な先生と出会い、たくさんのことを学ぶことができました。ここで学んだことを授業づくりに活かしていきたいと思いました。